

KT師の重賞本命と見解

G1朝日杯 FS

特にここ数年はPサンデーや、デインヒル、フェアリーキングといったスプリント適性の高い血を持つ馬が走りやすいレース。

人気薄で好走したグランレイ、クリノガウディーなどは将来的に 1400m 以下で走った馬。

昨年の勝ち馬グレナディアガースも 1800m よりは 1400m の方が良いタイプでしょう。

今年の上位人気馬は中距離指向の差し馬が多いので、期待值的にも短距離指向を重視。

本命はセリフォス。

ダイワメジャーで母父欧州型。このパターンはアドマイヤマーズ、ボンセルヴィーソもそう。

牝馬のダイワメジャー産駒で 2 歳 G1 を勝ったレシステンシア、メジャーエンブレムも母父欧州型。

道中で 1400m 寄りの速い流れを経験しているのも当レースでは有利。

相手妙味はオタルエバーとドーブネ。

オタルエバーは父欧州型。

先週の阪神 JF も 1、2 着は父欧州型。

父リオンディーズは当レース勝ち馬。

先週の勝ち馬サークルオブライフはリオンディーズの兄エピファネイアの産駒。

そして何といても母系にデインヒル。

1400m の流れを経験しているのと、

逃げても上位の上がりを使っているようにタメて伸びている戦歴も当レース向き。

ドーブネは前走 1 着で馬体重は 460m キロ以上のディープ産駒。

阪神開催の当レースは前走 1 着で
460 キロ以上のディープ産駒が 6 頭出走し 5 頭が馬券に。

母父フットステップスインザサンドはイギリス 2000 ギニーを 3 連勝で勝った馬。
体力の完成が早い血統を母系から補われているのも当レースでは強調材料。